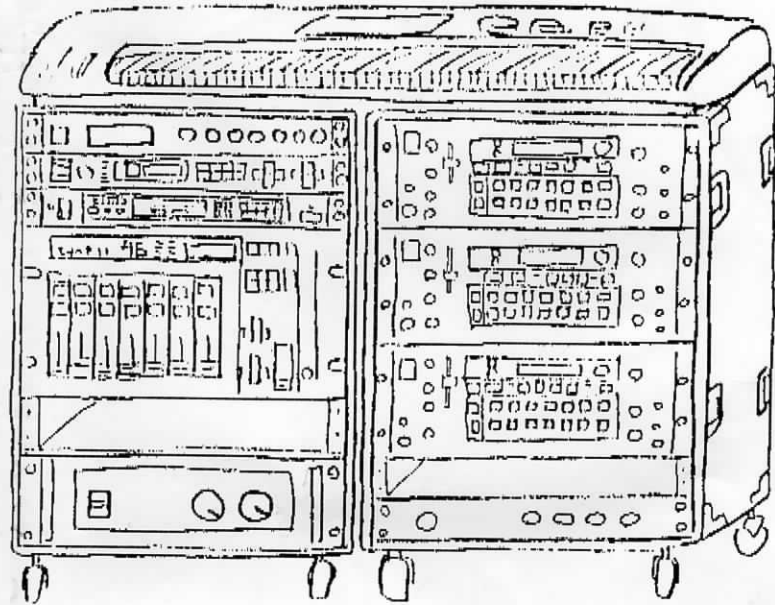


これが伊東たけし (T-SQUARE) のセッティングだ！！



S1000KB
MB76
SPX90
MU-R201
DMP11



うんっ
これならわかる！

右側のラックには、EWI用音源EWV2000が3台。一番上のEWVがメインの音源。
2番目がサンプラー(S1000KB)のコントロール用、3番目の音源は、ほとんど使われておらず、予備といった感じ。

ラックの一番下には、EWIの信号を4つに分けるユニットが入っている。

これは、市販されていないので伊東氏スタッフの自作によるものと思われる。

左側のラックは上からMB76、SPX90(YAMAHA)、MU-R201(SONY)、DMP11(YAMAHA)と、モニター用のYAMAHAのモニターアンプ。

ラックの上には、サンプラーのS1000KBが置かれている。

☆音源側のセッティング(右ラック)

EWI1000からの信号は、ラック一番下のユニットで分配されて3台のEWV2000に送られる。一番上のEWVがメインの音源で"JUDD" "M.B"の音色をエディットした音が使われている。2番目のEWVは、S1000KBの音をEXT INに入力して、S1000KBのコントロール専用になっているのでEWV2000自体の音は出していない。サンプラーの音色は、プラス系を中心に、音に厚みを加える為に一番上の音源と重ねて演奏される。しかし、あくまでもかくし味としてEWVのアナログシンセ音に薄く足されているだけのようだ。3台のEWVの出力は、それぞれボリュームペダルを通過してMB76に入力される。それぞれの音は、常に出力されていて、ボリュームペダルで微妙なバランスをコントロールしている。

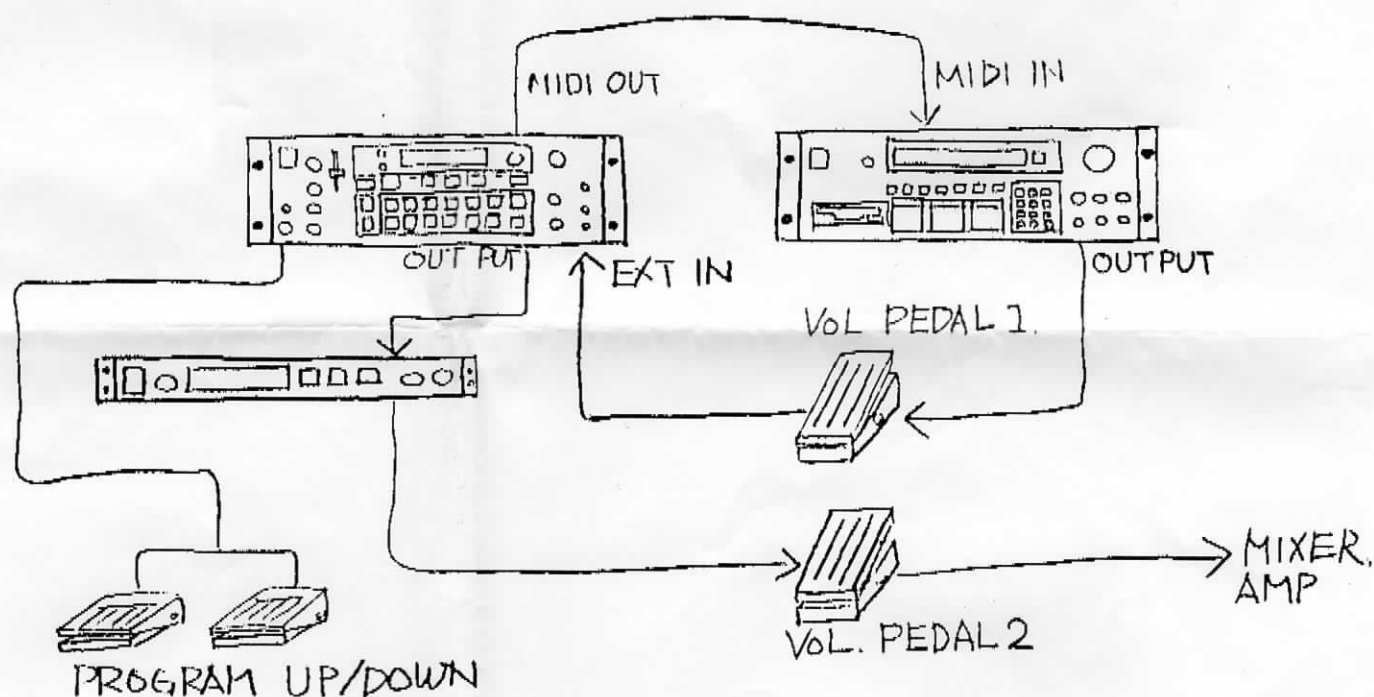
◎伊東たけしにせまる！

伊東氏と同じセッティング、同じ機材にするには大変なお金がかかってしまう。そこで、もっとコンパクトに、それでいてバッチリ伊東たけしになりきれぬシステムを考えよう。

音源は伊東氏の場合3台使われているが、1台でまとめる事もできる。VCOのSOURCE 1をEDITして、EXT BALANCEを"0"にすると、EXT INからの信号と内部のVCOが同方鳴らせるようになる。EWV側の音色プログラムこのように書きかえてEXT INにサンプラーを接続しておけば、2台もEWVを使わなくても良い。

サンプラーも伊東氏はS1000KB(¥525,000)を使用しているが、鍵盤は使用しないので、S1000(¥439,000)でも同じである。又、自分で音を録音して使わないで、市販のライブラリーだけで使うなら、S1000PB(¥308,000)でも良い。

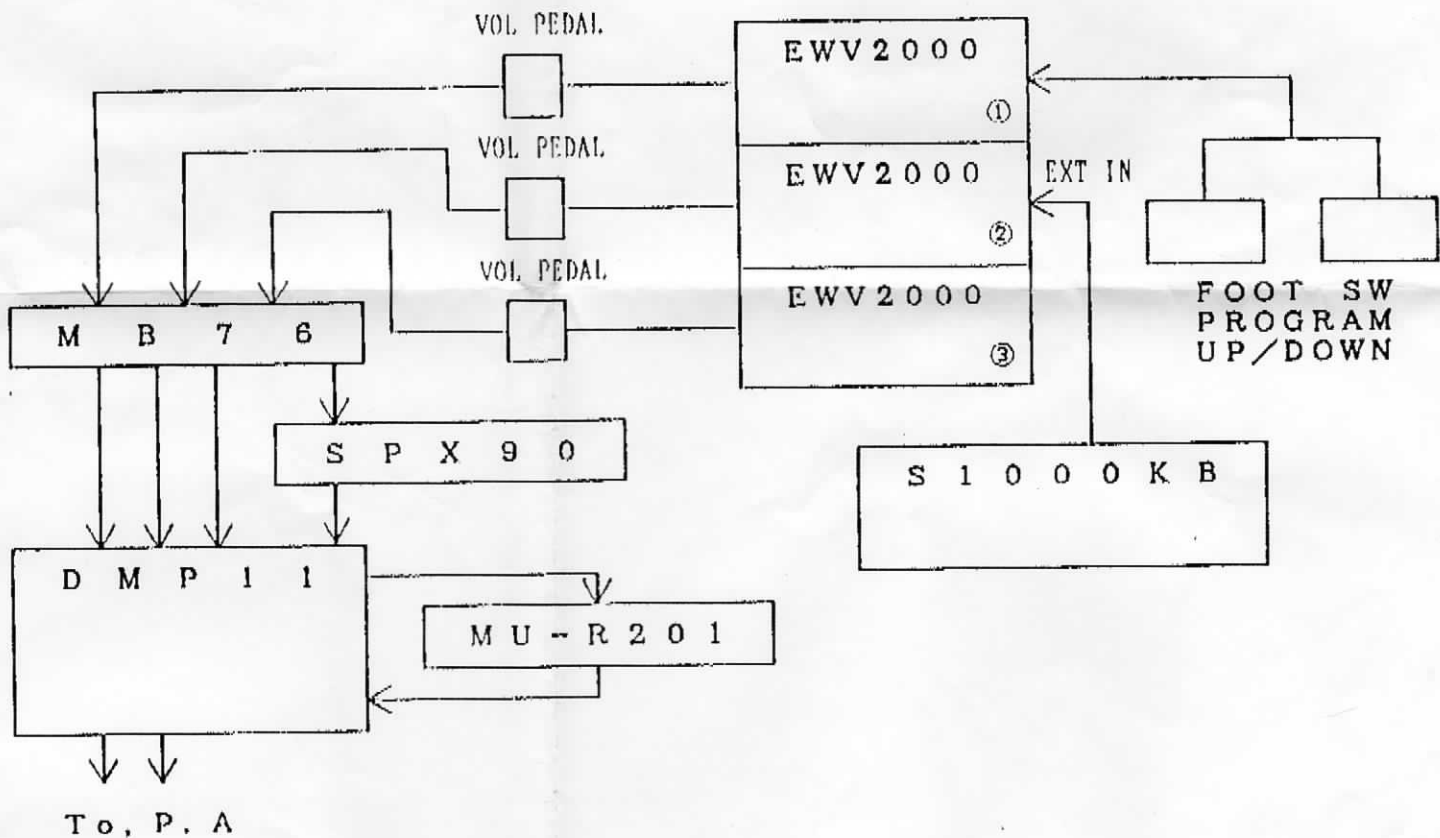
更に、S1000のディスクがロード可能なS950(¥243,000)という機種もある。エフェクターは、最近ではディレイ、リバーブといったエフェクトを同時に1台で使えるマルチエフェクターもあるので、そういったものを使えば1台で済む。



VOL PEDAL 1でサンプラーとEWVのレベルをコントロール。
VOL PEDAL 2で全体のレベルをコントロール。

☆ミックス、エフェクトのセッティング (左ラック)

音源からの音は、まずAKAIのマトリックスパッチベイMB76(完了品)に入力される。ここでYAMAHAミキサーDMP11と、YAMAHAエフェクターSPX90に信号が分配される。MB76が使われているのは、DMP11のエフェクトの送りが足りない為で、エフェクトセンドの多いミキサーを使う場合は必要ない。MB76に入力された信号は3つ別々のまま(ミックスされることなく)DMP11に送られ、ミキシングはDMP11で行われる。エフェクトは3系統使われている。SPX90は、主にアーリーリフレクション系のエフェクトで、音に奥ゆきを与える為に使われている。アーリーリフレクションとは初期反射の事で、音の拡がりや距離感が出せる。DMP11の内蔵のエフェクターでは、主にディレイ系のエフェクトが使われている。ここでのディレイは、タイムを充分に取り、1拍や2拍といったタイムが曲に合わせてセッティングされている。SONYのMU-R201は、リバーブ系のエフェクトを行っている。各エフェクターのバランスは、DMP11でメモリーされて、MIDIのプログラムチェンジで、エフェクターのセッティングとともにプログラムチェンジされる。プログラムチェンジの情報は音源のEWVからEWVに接続されたフットペダル(UP/DOWN)によって出力される。



☆EWIのセッティング

特に変わったセッティングはないが、グライドをオフにして(センスを " 0 " にしぼって)使っているようだ。右手の親指は、常にグライドプレートとアースプレートの全体にかかっており、オクターブでフレーズが動く場合の滑らかな動きは、バンドを使う事で表現している。